



天保年間からの
暖簾を守る

泉新 (老舗鰻料理店)

創業は天保元年（1829）。伝統の味と暖簾を守り続けて180年余り、現在の店主泉田常執（つねとも）さんは六代目となる。

初代の和泉屋蔵吉は越後の出身で、江戸後期に故郷を出て、横浜で「うなぎ屋」をしていたところ、桐生の買継商九代目佐羽清衛門が、その味に感動し、「ぜひ桐生に」と懇願し、桐生で開業したと伝えられる。

泉新の屋号は三代目の泉田新蔵からとったものという。戦前は裏に宴会場があり、鰻だけでなく割烹料理の店として賑わった。鰻専門になったのは五代目の金四郎氏の時から。この頃は出前中心であり店で客が食べることはまれだった。昭和40年代のオイルショック以前は、「出前が昼までに10件以上あった」と常執さん。その後、社会情勢の変化に伴い、同56年から店で鰻料理を食べられるようにした。昭和50年代の商店街近代化事業で、街が大きく変貌していく中で、店舗は同61年に曳き移転が行われ、その佇まいを守った。

伝統的な建物と炭火で焼かれ秘伝のタレで味わう蒲焼は格別、桐生を訪れる観光客が一度は訪れたい店となっている。

向かい側の建物を改修し、「ギャラリー本町三番街」として今年オープン。九月には写真展や掛井五郎展の開催を企画している。また、バリアフリーの構造でもあり、車椅子のお客さんお食事処としても活用していくという。

店舗を増やすことは考えず、頼もしい七代目の貴行（たかゆき）さんに次代を託す。さらに泉新の歴史と伝統を深めていく考えだ。



ギャラリー本町三番街

- 泉新 六代目・泉田常執（つねとも）氏
- 住 所／桐生市本町3-3-2
- 電 話／0277-22-2234